



一般財団法人

函館国際水産・海洋都市推進機構



Newsletter

第29号 2014年3月20日

## 機構の活動

平成26年2月から  
平成26年3月まで



### 平成25年度第4回理事会

開催

H26.2.12



理事会の様子

平成25年度第4回理事会を、ロワジュールホテル函館にて開催しました。

石尾代表理事を議長とし、議案第1号 平成26年度事業計画案について、議案第2号 平成26年度事業計画案について、議案第3号 運営協力委員の解任について、議案第4号 契約職員就業規則の改正について審議が行われ、すべての議案について異議なく原案通り承認されました。

また、平成26年6月 供用開始予定の函館市国際水産・海洋総合研究センターに関する説明および、本年度にて終了となる2つの戦略的基盤技術高度化支援事業（通称：サポイン事業）について、事務局より報告を行いました。

### 経済産業省 平成25年度ものづくり中小企業連携支援事業

（戦略的基盤技術高度化支援事業（通称：サポイン事業））

「海洋ユビキタスセンシングのための球状太陽電池を用いた小型電源モジュールの開発」  
第3回研究開発委員会 開催 H26.2.27

当機構が事業管理機関として参画しているサポイン事業の第3回研究開発委員会を開催しました。

平成23年度に採択された本事業は、球状太陽電池を用いて海上での電源供給を可能とした海洋観測器の開発を目指し、リアルタイム潮流計、ユビキタスプロッタ、定置網モニタ、多機能漂流ブイのサブテーマに分け、開発・実証を推進して参り、本年3月に終了となります。

総括研究代表者である公立はこだて未来大学教授 和田雅昭氏が研究開発全般および進捗の状況を説明し、

事業全体の大部分は当初の目標を達成した、との報告がされました。その後、サブテーマ

毎に各研究機関が研究内容の報告および質疑応答が行われ、また、外部評価委員およびオブザーバーから、事業全体の評価および講評等を頂きました。

なお、本事業の定置網モニタの開発・実証においては、研究成果の特許出願も行われ、事業終了後の商品化に一步近づいた形となりました。本事業での研究開発成果は、既に各種問合せを受けており、今後の事業化が期待されます。



委員会の様子



太陽光筒状パネル搭載イカダ

## 経済産業省 平成25年度ものづくり中小企業連携支援事業

(戦略的基盤技術高度化支援事業(通称:サポイン事業))

「漸深層で使用可能な同期機能実装型バイオリングデバイスの開発」

フィールド検証

実施 H26.2.23 - 3.2

第2回研究開発委員会

実施 H26.3.7



データロガーの実験

当機構が事業管理および研究開発機関として参画している本事業のフィールド検証を実施、および第2回研究開発委員会を開催しました。

フィールド検証は、大阪海遊館以布利センター(高知県土佐清水市)において、本サポイン事業の特色である同期機能の検証を行いました。同センターの水槽にて、複数のデータロガーがお互いのデータを正しく送受信していること確認し、検証は無事終了しました。魚類に取り付けられるサイズのロガーで、同期機能を持った製品は例が無く、

商品化に向けて課題は残すものの、大きな第一歩となりました。

本事業の第2回研究開発委員会では、総括研究代表者である(有)ゲーテック 取締役技術本部長 小松正氏が研究開発全般および進捗の状況を説明し、その後サブテーマ毎に各研究機関が研究内容の報告を行い、質疑応答が行われ、今後の予定について話し合いを行いました。

今後の事業化に向けて、当機構も引き続き各機関との連携を密に取り、尽力して参ります。



委員会の様子

## 地域の活動

平成26年1月末から

平成26年3月まで



### サイエンス・サポート函館「科学祭2014キックオフ」 参加

H26.1.25



科学祭2014キックオフの様子

サイエンス・サポート函館(SSH)およびSSH科学楽しみ隊の主催による2014年の「はこだて国際科学祭に向けたアイデア共有のためのワークショップ「科学祭2014キックオフ」が、函館市地域交流まちづくりセンターで開催されました。

「はこだて国際科学祭2014」のテーマは「健康」であり、参加者はいくつかのグループに分かれ、健康について語り合うとともに、科学祭でやってみたいことや、科学祭を通じて伝えるべきことなどを提案しました。はこだて国際科学祭2014は8月に開催される予定です。

### 函館市地域ビジネスマッチング事業

開催

H26.2.18

日本政策金融公庫本社ビル(東京)において、日本政策金融公庫千住支店および東京支店取引企業の研修会「若手経営者の会合同研修会」が開催されました。

同研修会において、函館市が企業誘致活動として、地域資源ビジネスマッチングを行いました。研究機関プレゼンテーションでは、「マリンサイエンスで世界をリード」と題して、当機構の産学官連携コーディネーターである福田が、函館マリ



プレゼンテーションの様子

ンバイオクラスターや戦略的基盤技術高度化支援事業（通称：サポイン事業）など、北海道大学大学院水産科学研究院を中心とした産学官連携への取り組みを紹介しました。同研修会には約50社の参加があり、函館地域の魅力に興味を持って頂きました。

#### 第44回北洋研究シンポジウム 開催

H26.2.20

水産海洋学会等の主催、当機構後援により、第44回北洋研究シンポジウムが「水産・海洋ICT研究の最前線～漁業現場における自主管理のための情報通信技術～」と題し、函館市中央図書館視聴覚ホールにて開催されました。



総合討論の様子

本シンポジウムでは、公立はこだて未来大学 教授 和田雅昭氏をはじめ、研究機関や民間企業からの講演があり、その後、総合討論では、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 宮下和士氏が座長となり、漁業現場における自主管理のための水産情報通信技術について、その研究の最前線や実際の導入事例を紹介し、今後の水産業における情報通信技術の活用の在り方について議論がなされました。

#### 平成25年度 水産・海洋コーディネーター・海のサポーター認定式 (新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成事業) 開催

H26.2.26

北海道大学大学院水産科学研究院が実施する「新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成」事業の、平成25年度「海と人をつなぐカリキュラム」認定発表会が開催されました。「水産・海洋コーディネーター」を受講した9人がプレゼンテーション（質疑応答を含む）に臨み、全員が認定基準を満たし、水産・海洋コーディネーターに認定されました。

また、「海のサポーター」の受講者についても、受講した23人が認定条件となる単位を取得したことから、海のサポーターに認定されました。

なお、3月12日には、「新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成」平成25年度認定式が行われ、修了生らに認定証が授与され、また、当機構から記念品が贈呈されました。



水産・海洋コーディネーター  
海のサポーター認定式

#### MAREリーダーワークショップ 開催

H26.3.1-2



ワークショップの様子

ジャパンMAREセンター（NPO法人海の自然史研究所）主催により、MAREリーダー養成ワークショップが、函館市産学官交流プラザにて行われました。

海を学ぶための体系的な教育プログラム“MARE”は、子供たちに海や海の生き物、環境問題などをテーマにして科学的な知識や手法、考え方を教えるためプログラムです。「りんごと海」「魚！サカナ！さかな！」「赤い魚を探せ！」の3つのプログラムについて、進行する上での手法や問題点などを話し合いながら学びました。

20名の受講者が本ワークショップを無事修了し、晴れてMAREリーダーに認定され、今後はMAREリーダーが中心となり、子ども達に向けたプログラムを実施できる資格を得ることができました。



ガゴメ商品の展示

公益財団法人函館地域産業振興財団、北海道、函館市主催により、函館マリバイオフォーラム&フェスタ ファイナルがロワジールホテル函館にて行われました。「函館マリバイオクラスター～UMI (Universal Marine Industry) のグリーンイノベーション」をテーマに、5年間の成果について事業説明が行われ、その後、北海道大学大学院水産科学研究院教授 安井肇 氏、同大学院教授 宮下和夫 氏、同大学院教授 齊藤誠一 氏、北海道立工業技術センター主任研究員 吉岡武也 氏による講演も行われました。

また、会場では試作品・パネル展示による事業説明の他、さっぽろ‘Smart-H’・とちあ ABC プロジェクトのパネル展示も併設されました。本事業は本年度で終了となる為、今後の展開や課題についても講演されました。

## 函館市国際水産・海洋総合研究センター 整備の進捗状況

### 函館市国際水産・海洋総合研究センター いよいよ6月供用開始!!

函館国際水産・海洋都市構想を推進し、水産・海洋研究の中核となる研究センターが、いよいよ平成26年6月にオープンします。本館棟には研究室、共用実験施設、実験水槽室等があり、大型実験水槽で行われる実験の様子はエントランスホールから市民や観光客も見学することができます。また、大会議室は約250名（椅子のみで使用する場合）の収容力があり、中小規模の学会や会合などに利用が可能です。その他に取水棟・海水供給施設もあり、実験水槽等で海水が利用できます。隣接する岸壁には、調査研究船などが係留でき、まさに水産・海洋研究が集約される場となります。

当機構は、研究センターの指定管理者となり施設運営管理を行うとともに、研究センターを中核拠点として、研究者や企業などとの更なる連携を図り、産学官連携コーディネート業務にも尽力して参ります。



### ★ 事務所移転のお知らせ

研究センター供用開始前の準備のため、平成26年4月1日より  
当機構事務所が下記へ移転します。

<平成26年4月1日より>

新住所：〒040-0051 函館市弁天町20番5号

函館市国際水産・海洋総合研究センター内

新 TEL：0138-21-4700（機構代表）

新 FAX：0138-21-4601

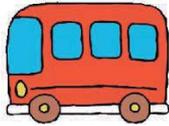


## 《平成26年度公益社団法人日本水産学会春季大会 開催のご案内》

日時：平成26年3月27日（木）～3月31日（月）

会場：北海道大学函館キャンパス

（〒041-8611 北海道函館市港町3丁目1-1）



※会期中の3日間は公共交通機関の補助的に無料シャトルバスの運行を致します。

### プログラムの一部紹介

※シンポジウムの一般聴講は無料です。

### I 主催 シンポジウム企画委員会

＜3月27日（木）シンポジウム＞

題目 「スサビノリの持続的生産への挑戦」

題目 「ハタ科魚類における繁殖の生理生態と種苗生産」

＜3月31日（月）ミニシンポジウム＞

題目 「水産物の生産・加工・流通段階を保証するリスク管理研究の最新動向」

題目 「データ高回収率を実現するバイオロギングシステムの構築

～魚類の個体群・群集ダイナミクス解明に挑む」

題目 「微量元素・同位体を指標とした沿岸域の物質動態研究の現状と展望」

その他詳細は  
下記HPをご覧ください。  
<http://www.jsfs.jp/>

＜問い合わせ先＞

〒041-8611

北海道函館市港町3丁目1-1

北海道大学大学院水産科学研究院 教授

総務担当 川合 祐史 氏

E-mail:jsfs2014@fish.hokudai.ac.jp

## 《函館どつく 第863番船 進水式のご案内》

日時：平成26年4月15日（火） 時間未定

函館造船所第1号船台においてSuper Handy 32（載貨重量32,000トンばら積み貨物船）第863番船の命名式および進水式を行います。

大きな船が目の前をゴウ音とともに滑り降りる様子は非常に感動的であり、

東京以北では最大規模のイベントです。

進水式は一般の方々に公開しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

※詳しくは、函館どつくHPをご覧ください。  
<http://www.hakodate-dock.co.jp>



■函館国際水産・海洋都市構想シンポジウム

# 海の環境変化に対応した 水産資源の活用を目指して



平成26年 **3月26日**(水)

時間 15:00~16:50

会場 ホテル函館ロイヤル 2F ゴールデンホール

PROGRAM

参加無料

定員100名

15:00 開会挨拶 谷口 諭 函館市企画部 部長

15:10 講演 マリンITを活用した、水産資源の安定生産に向けて  
伊藤 聡 氏 ㈱エコノクス 代表取締役社長

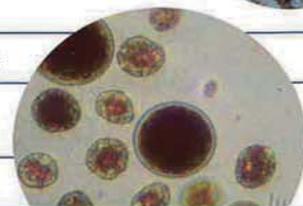
15:40 講演 幼体移植式藻場造成法(モアシス)の実用化に向けて  
北山進一 氏 共和コンクリート工業(株) 海藻技術研究所アルガテックKyowa 所長

16:10 講演 微細藻類が起こすイノベーション  
鷺見芳彦 氏 北海道大学人材育成本部 特任教授

16:40 閉会挨拶 伏谷伸宏 函館国際水産・海洋都市推進機構 推進機構長

16:50 閉会

17:30—18:30 懇親会 会費 ¥3,000 2F アカデミーホール



主催

一般財団法人  
函館国際水産・海洋都市推進機構  
函館市

後援

函館商工会議所、公益財団法人 函館地域産業振興財団  
北海道大学大学院水産科学研究院  
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター  
公立はこだて未来大学、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
水産研究本部函館水産試験場、函館水産海洋都市を考える会

発行：一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構

〒041-8611 北海道函館市港町3丁目1番1号

函館市産学官交流プラザ内(北海道大学マリンサイエンス創成研究棟)

TEL: 0138-43-0220 FAX: 0138-42-6223

URL: <http://www.marine-hakodate.jp/> E-mail: [office@marine-hakodate.jp](mailto:office@marine-hakodate.jp)

